

茨木のり子 2024 夏 6.15 のご案内

【趣旨】

6月12日は、現代詩の長女といわれた茨木のり子の誕生日。1926年生まれで今年は98歳に当たるのですが、80歳になる4か月前の2006年2月17日、くも膜下症で亡くなりました。そのメモリアルイベント「茨木のり子 2024 春」を、2月17日に東京の中目黒トライで開催しました。

今回は「茨木のり子 2024 夏」として、6月12日（水曜日）ではなく、6月15日（土曜日）に開催することになりました。当日は千葉県民の日でもあり、千葉県松戸市での開催の運びとなりました。茨木のり子の詩に「六月」があります。どこかに美しい村はないか／どこかに美しい街はないか／どこかに美しい人と人の力はないかで始まる三連の詩です。しかしこの詩に、六月の文字はありません。この詩では、村と街そして人と人の力と深めています。今回のイベントでは茨木のり子の詩情を紐解きたいと思います。

いま、世界では戦争や紛争、パンデミック感染症、顕著になった気候変動、そして地震や津波や火山爆発など、私たちの生命や生存を揺さぶる事象が共在し混乱しています。茨木のり子は、私たち人間が「生きる」ことを、「愛と平和」の観点から語っています。このイベントでは、朗読と音楽で、市民参加のカタチで、「六月」の茨木のり子の詩情を、これら三部構成で表現いたします。

（企画者 青柳浩生 記）

【次第／スケジュール】

- ・日時 2024年6月15日（土）
開場 13：30～
開演 14：00～16：00（予定）

- ・場所 松戸商工会議所・別館ホール
（松戸市松戸 2060）

アクセス QR コード ⇒



- ・次第（予定）

14：00 オープニング

14：10 第1部 「生きる」 自分の感受性くらい／時代おくれ／汲む／こどもたち

14：30 第2部 「愛と平和」 わたしが一番きれいだったとき／内部からくさる桃
／それを選んだ／もう銃をもたないで／死んだ男の残したもの

14：50 第3部 「六月」 お母さんのアイスクリーム／花の名／
握手／六月

15：30 電子ピアノ演奏

新・千葉県民歌披露

15：55 クロージング

【出演者紹介】

松島 邦 (matsushima kuni)



山形県鶴岡市出身。早大文学部演劇専修卒。NPO 日本朗読文化協会会員。朗読講師、司会。朗読行事で毎年朗読活動。庄内弁の茨木のり子の詩朗読で新境地を開拓。小学校や高齢者施設でボランティア活動。

山川 建夫 (yamakawa yukio)



東京都出身。慶応大学卒業してフジテレビ入社。モーニングショー司会の後、17 年後退社千葉県市原市に定住し自然農業を 25 年以上実践。フリーアナウンサー & 司会業のほか朗読講師 & 執筆活動。

田中 泰子 (tanaka yasuko)



一葉記念館、太宰治文学サロン、吉村昭研究会出演他、夏目漱石、菊池寛、松本清張、向田邦子作品等幅広く朗読。邦楽、クラシック、シャンソン等とのコラボ多数。一葉記念館他講師。

本橋映子 (motohashi eiko)



横浜市出身。ピアノ、チェロ、フルート、三味線など、音楽とのコラボによる朗読会に多数出演。朗読を田中泰子氏に師事。太宰治、夏目漱石、藤沢周平、絵本等ジャンルは幅広い。

別府真也 (beppu shinnya)



オペラ歌手 (バリトン)、北九州市出身。千葉大学大学院自然科学研究科修了。日本オペラ振興会育成部修了。2010 年ロータリー財団奨学金で渡伊、ミラノで研鑽。第三回横浜国際コンクール第 1 位。藤原歌劇団団員。

高谷秀司 (takakani hideshow)



雅楽師・ギターリスト・教育者。音楽ロジ「サウンド・ヴィレッジ」を 40 年前から開設しロックミュージックを振興。和洋音曲の楽理 & 演奏者。今回は、茨木のり子の詩情世界を「六月」として演出吟詠 & 新・千葉県民歌を作曲。

小森俊明 (komori toshiaki)



作曲家、編曲家、ピアニスト。東京藝術大学・同大学院作曲専攻修了。同大学神奈川支部役員。日本交響楽振興財団作曲賞、東京国際室内楽作曲コンクール、東京歌曲作曲コンクール等に入賞入選等。芸術全般にわたる共著 7 冊。

※ほかに、5 人組の旅する楽団「チーム金子」というアコースティック・バンドが、飛び入り参加で、《愛と平和》関連のソングを歌います。